

NEWSLETTER

四国英語教育学会

No.31
Mar. 2007

〒760-8522 高松市幸町1-1
香川大学教育学部英語教育研究室
四国英語教育学会発行

迷走する小学校英語

徳島県支部長 伊東治己 (鳴門教育大学)

小学校英語が相変わらず迷走しています。思えば、1986年に当時の臨時教育審議会が英語教育の開始時期の検討を答申して以来、20年の月日経っていて、未だに政府も文部科学省も結論が出せずにいるのです。特に最近、小学校への英語教育導入に反対の立場を取る研究者や文筆家の言論に勢いがあり、数年前はかなり現実的と思われていた公立小学校への教科としての導入は日に日に現実味が薄れていく感があります。第三期中央教育審議会も、その下部組織である教育課程部会外国語専門部会が小学校高学年からの「領域」または「総合的な学習」の中での必修化を提言したにも拘わらず、最終結論を出すに至らず、結局、2月に発足した第四期中央教育審議会で「これからの検討課題」のひとつとして継続審議することになりました。

小学校への英語教育導入に反対の立場を取っている鳥飼玖美子氏の「中学校からでも遅くない」という主張は、ご本人が同時通訳の仕事も経験されていたほどの英語の達人であるという背景も手伝ってか、納得する人も多いようです。加えて、少々堅い内容ながら空前のベストセラーになっている『国家の品格』の著者であり、数学者であり作家新田次郎を父とする文筆家でもある藤原正彦氏からも「小学校で英語を二、三時間勉強しても、何のたしにもなりません」と言われてしまえば、ますます小学校に英語は必要ないんだと考える人が多くなりそうな気配です。

なるほど、鳥飼氏の言うとおり、英語の学習は中学校からでも決して遅くはないと思います。しかし、小学校から始めたとしても決して早すぎることはないということも押さえておく必要があります。そもそも、小学校への英語教育の導入を効率論で論じるべきではないと考えます。初等教育の視点から、そして、言語教育の視点から、小学校英語の意義を論ずるべきだと考えます。私自身は、外国語としての英語教育は初等教育段階での子どもたちの人格陶冶に十分貢献できるし、子どもたちの言語生活をより豊かなものにしてくれる可能性を秘めていると同時に、教科としての導入は、「総合」では補償されていない教育の機会均等を補償することになるばかりでなく、我が国の言語教育の一層の充実(例えば早期開始による高校段階からの第二外国語教育の推進)にも繋がるものと信じています。その意味でも、現在、ヨーロッパで急速に広まっているplurilingualism(複数の言語を学習することによって個人の言語生活を豊かにするという発想)に注目しています。英語が日本語の発達を妨げるという後ろ向きな発想ではなく、プラス思考で考えて行きたいと思う今日この頃です。

第 32 回全国英語教育学会高知研究大会報告

31 年ぶりに英語教育学会研究大会の発祥の地・高知に再び集うことになった第 32 回全国英語教育学会高知研究大会は、第 1 回ときには襲来をうけた招かれざる客（台風）の訪問も無く、南国高知特有の暑い夏真っ盛りの中、2006 年 8 月 5 日、6 日の両日にわたり開催された。

門田大会実行委員長の話によると、当初準備した 600 個の資料袋を急遽 100 個追加して対応したとのことで、参加者は 650 人くらいになったということであった。また、研究大会発表予稿集も“完売”したとのことで、本当に貴重な資料が「参加した者の宝」として今後活かされることになったわけであるが、これは 550 ページを超える分厚いものとなり「電話帳」のニックネームまで頂戴することになった。さらに、発表件数も 160 件（2 件のキャンセルあり）、展示も 20 社に及びその盛況ぶりは昨年札幌研究大会に勝るとも劣らぬものであった。

南国の高知大学・朝倉キャンパスでの開催ということで、那須大会実行委員会事務局長は当初発表会場の暑さ対策に頭を悩まされたようであるが、3 つの教棟で冷房完備の部屋を用意され、発表者・参加者ともに快適に時を過ごせるよう配慮をいただいた。

1 日目の自由研究発表は 17 会場、課題研究フォーラム 4 会場、問題別討論会 2 会場で多岐にわたるテーマが扱われ、参加者としてはあれもこれも出してみたいものばかりで、絞り込むのが難しい、などと贅沢な悩みを抱えることしきりであった。総会の後は会場を高知市内に移して懇親会が催されたが、200 名を超える出席者があった。高知名物の「皿鉢料理」に舌鼓を打ち、久しぶりに会う遠来の友との情報交換は何物にも代え難い貴重なひと時であった。また、アトラクションとして「鳴子おどり」の連の見事な踊りを満喫し、さらには出席者も加わり会場全体が一つになって高知研究大会への集いをこの上なく盛り上げたことは、真夏の夜の忘れ難い思い出となった。

2 日目は各発表会場において、発表に先立ち 61 年前の広島への原爆投下による犠牲者に対して 1 分間の黙祷を捧げることから始まった。自由研究発表は午前中に 16 会場で行われ、各会場とも 4～6 件の発表が精力的に行われた。午後はシンポジウム「日本の英語教育を考える - 小学校英語教育の課題と方向性 - 」がメイン会場で実施されたが、会場は満席になり予備の椅子が何脚も持ち込まれる程であった。このときは学会員のほかに一般の方も参加されており、今回のこのテーマはまさに国民的な関心事であることをまざまざとみせつけるものであった。また、この「小学校での英語教育」に関しては今大会の自由研究発表においても全体で 10 件の発表があった。この学会としても今後真剣に取り組むべき課題としていくべきものであろうし、まだまだこれから実践研究を初めとして発表が増えていくことが予想される。

日本の英語教育は、中学校-高等学校-大学の流れの中だけのものではなく、これからは小-中-高-大の流れの中で論じるべきであり、それぞれの段階で多角的に捉え、連携していくべきものであろう。さらなる研究がなされることを切に願うところである。

金谷憲会長のもとでの全国大会はこの第 32 回で終わりであるが、大成功のうちに幕を閉じた今大会のために多大の精力を惜しみなく注ぎ込まれた金谷会長と大会実行委員会の関係者各位に深甚なる感謝の意を捧げたい。

来年度の第 33 回大会は板垣信哉新会長のもとでの大分大会になる。ますます素晴らしい全国大会になることを祈念して・・・。
(愛媛県支部長 松本達也)

平成 18 年度四国英語教育学会理事会・総会報告

理事会報告

平成 18 年 6 月 24 日(土)、標記理事会が香川大学教育学部において開かれ、下記の事項が審議された。

議 事

議題 1 . 役員改選について

5 月に逝去された平岡禎一氏に代わり、同じく詫間電波高専の森和憲氏が新理事となることが了承された後、次期会長の選出が行われ、新会長に松本達也氏(松山東雲女子大学)が選出された。本件については、新旧事務局引継ぎを円滑に行うため、任期最終年度の理事会・総会で新役員体制の承認を行うことが、本理事会ですでに了承済みであること、また、新会長には、慣例により 1 期 2 年の任期を 2 期(4 年間)務めていただくことも確認された。事務局体制(事務局長、会計監査)については、8 月の総会までに新会長が候補者を立てることになった。

議題 2 . 平成 17 年度会務報告について

議題 3 . 平成 17 年度会計決算報告について

議題 4 . 平成 17 年度会計監査報告について

平成 17 年度会務報告並びに下記の会計決算報告・同監査報告があり、承認された。

例年、全国英語教育学会事務局から受け取っている事務謝金は、事務連絡の不手際により振込みが年度内に行われなかったため、本年度の決算に含められなかった(平成 18 年 5 月 16 日に 51,000 円領収済み)

< 収 入 >

前年度繰越金	556,364
会費振込	425,000
全国英語教育学会より	0
紀要掲載料	35,000
その他(全英学会会費預り金)	110,000
合計	1,126,364

< 支 出 >

香川研究大会補助金	50,000
印刷費	133,820
通信費	71,470
雑費	13,642
その他(全英学会会費預り金)	110,000
次年度繰越金	747,432
合計	1,126,364

議題 5 . 平成 18 年度会務・予算案について

会務並びに予算案が事務局より次のとおり提示された。

< 収 入 >

前年度繰越金	747,432
会費振込	450,000
全国英語教育学会より	100,000
紀要掲載料	50,000
その他(全英教学会費預り金)	100,000
合計	1,447,432

< 支 出 >

印刷費	160,000
通信費	100,000
雑費	50,000
予備費	1,035,432
その他(全英教学会費)	102,000
合計	1,447,432

これに対して、支出の部で、事務局活動に伴う学生アルバイトの補助を無償というのはいかなるものか、会議費等と併せて雑費として計上し、報酬として支払うべきではないかとの提案が出席の理事よりなされ、上掲の案中、雑費を100,000円、予備費を985,432円と変更して承認された。

議題6.平成18年度研究大会について

昨年確認したとおり、平成18年度の研究大会は開催せず、総会のみ8月開催の全国英語教育学会高知研究大会にて開催することを確認した。会場については高知大会運営事務局に手配を依頼することにした。

議題7.平成19年度研究大会(愛媛)について

松本達也愛媛県支部長より、来年度開催の愛媛研究大会は、松山市の愛媛大学にて平成19年6月23日(土)に紀要編集委員会、理事会、懇親会、24日(日)に研究大会、総会を開催したい旨提案があり、了承された。

議題8.NEWSLETTER, No.31の執筆分担について

従前の担当記録に基づき、事務局よりNo.31の執筆分担を下記のように提案し、了承を得た。締め切りは、例年どおりの分量によって、1月末までに事務局宛てに送付とした。

巻頭言(徳島)、全英教大会報告(愛媛)、四英教理事会・総会報告(事務局)、四英教大会報告(なし)、四英教次回大会案内(愛媛)、全英教大会案内(事務局)、編集後記(事務局)

議題9.その他

- ・全国英語教育学会司会者の手配について
全国英語教育学会高知大会事務局より、研究発表会の司会者5名を手配してもらいたい旨依頼があったが、出席の理事にそれぞれお願いすることになった。
- ・紀要掲載費の請求について
一部の紀要執筆者に掲載費支払いの遅れがあったため、紀要掲載決定の案内時に紀要編集委員会より執筆者に掲載費の支払いについて案内(請求)してもらおうよう依頼することにした。

報告事項

報告 1 . 平成 17 年度会務報告

報告 2 . 平成 17 年度会計決算報告

報告 3 . 平成 17 年度会計監査報告

報告 4 . 平成 18 年度全国英語教育学会高知研究大会準備状況報告

報告 5 . その他

総会報告

平成 18 年 8 月 5 日(土)、標記総会が高知大学教育学部において開かれ、下記の事項が審議された。

議 事

議題 1 . 役員改選について

理事の交代と新役員体制が承認された。来年度より新会長に松本達也氏（松山東雲女子大学）が就任し、事務局長を寺嶋健史氏（松山大学）が務めることとなる。

議題 2 . 平成 17 年度会務報告について

議題 3 . 平成 17 年度会計決算報告について

議題 4 . 平成 17 年度会計監査報告について

理事会に提出のとおり、事務局より平成 17 年度会務・会計決算報告を行い、会計監査報告を行ったのち、了承を得た。

議題 5 . 平成 18 年度会務・予算案について

事務局より理事会に提出し、変更、承認を経た平成 18 年度会務・予算案の提示を行い、了承を得た。

議題 6 . 平成 18 年度研究大会について

すでに一昨年度来、総会にて提案・了承の本件について、再確認を求め、了承を得た。

議題 7 . 平成 19 年度研究大会（愛媛）について

議題 8 . その他

報告事項

報告 1 . 平成 17 年度会務報告

報告 2 . 平成 17 年度会計決算報告

報告 3 . 平成 17 年度会計監査報告

報告 4 . その他

第 19 回四国英語教育学会愛媛研究大会案内

標記の研究大会を下記の要領で開催いたします。多数の先生方がご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

記

- 1 期 日：2007年6月23日(土) 紀要編集委員会・理事会・懇親会
6月24日(日) 研究発表会、総会等
- 2 会 場：愛媛大学教育学部(両日とも)
790-8577 松山市文京町3番
Tel:(089)927-9000(代)
Fax:(089)927-9395
- 3 参加資格：四国英語教育学会会員ならびに英語教育に関心のある方
- 4 参加費：会員・学生 1,000円、非会員 1,500円(受付にて納入)
- 5 大会事務局：790-8577 松山市文京町3番
愛媛大学教育学部 英語教育研究室(池野修)
Tel:(089)927-9512(直)
E-mail: ikeno@ed.ehime-u.ac.jp
- 6 その他：
 - (1) 自由研究発表については、申込み締め切りは**4月28日(土)必着**です。
発表をされる方は、学会ホームページより所定の申込み用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、Eメール(添付ファイル)または郵送にて下記宛にお申込みください。
なお、発表資格は、共同研究発表の場合も含めて、四国英語教育学会会員であることとなっていますので、非学会員で発表を希望される場合は、発表申込みまでに入会手続きをお取りください。

申込先： 790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学教育学部 英語教育研究室
第19回 四国英語教育学会愛媛研究大会事務局 池野修 宛

発表要旨については、申込みのあった発表予定者に書式を別途ご案内しますので、それに従って作成し、**5月31日(木)までに**上記申込み先にお送りください。

- (2) 懇親会
 - ・ 日時：2007年6月23日(土) 17:30~19:30(予定)
 - ・ 場所：愛媛大学生協カフェテリア(学生会館2階)(予定)
 - ・ 懇親会は、同日午後の理事会終了後に開催されますが、会員であればどなたでもご参加いただけます。

第 33 回全国英語教育学会大分研究大会(案)

日 時：平成 19 年 8 月 4 日（土）・5 日（日）

場 所：大分市・大分大学

日 程：詳細については 4 月 7 日（土）に開催予定の全国英語教育学会理事会で承認を受けた後、大会ホームページ上に公開される予定。研究発表申し込みはホームページより受付（平成 19 年 6 月 1 日締切予定、発表資格は前年度に全国英教学会に会員登録されていることが条件）。大会案内は 5 月頃、四国英語教育学会会員に郵送致します。

紀要編集委員会より

『紀要』第 27 号原稿募集中

四国英語教育学会『紀要』第 27 号への投稿締切りは 4 月 20 日（金）となっています。第 26 号巻末に収載の執筆要領、文献の示し方を踏まえ、投稿規定等は学会ホームページで確認して、奮ってご応募ください。

なお、投稿された論文は、複数の査読委員による査読を経たのち、編集委員会において掲載の可否が決定されるという手続きによって進められますが、掲載が認められた場合には、修正が求められている論文については必要な修正を施して、最終稿をご提出いただくこととなります。この際に、併せて掲載料 5,000 円をお振込みいただくこととなっておりますので、この点ご了承おき下さい。

編 集 後 記

今号の松本愛媛県支部長の報告の通り、昨年 8 月の全国英語教育学会高知研究大会は、無事盛会裏に終わりました。ひとえに学会員の皆様のご協力、ご活躍のおかげです。とりわけ、この難しい事業を成功に導いてくださった、高知大会実行委員会および高知市近郊大学・学校の先生方のご尽力には心より感謝いたします。ありがとうございました。

さて、本事務局の仕事もこの Newsletter の発行を最後に、4 月より愛媛の新事務局へバトンタッチいたします。いきなり 6 月に愛媛研究大会の開催という大仕事がありますが、松本新会長、寺嶋事務局長、池野研究大会事務局長という強力な体制で、研究大会を皮切りに、本学会をさらなる発展に導いていただけるものと期待しております。また、今後も引き続き会員の皆様にはご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。(KM)

学会 HP <http://www.ec.kagawa-u.ac.jp/~mizuno/SELES/>